

むさしの TALK

アーティストを呼び込んで もっと音楽と芸術で彩るまちに

団しん也さん (歌手・芸人)

ジャズシンガー、コメディアン、俳優など多彩な顔を持つ、団しん也さん。まちに求めるのは多彩さよりも、“ひとつの色”“個性”のようです。



団しん也 (だんしんや)

1944年、群馬県富岡市生まれ。高校在学中にテレビ番組の「歌まね読本」で優勝。古賀政男氏に師事して歌手デビューし、その後ボードビリアンに。ジャズシンガー、コメディアン、役者、司会者など幅広いジャンルで活躍するエンターテイナーとして、テレビ、舞台、ライブなどに出演する。

● PRESENT

今回取材した、団しん也さんの40周年記念DVDを抽選で5名様にプレゼント！詳しくは本誌折り込みハガキをご覧ください。



吉祥寺に住む前は、新宿に住んでいた、赤塚不二夫先生やタモリ氏といった仲間たちと二丁目かいわいでしょっちゅう朝まで飲み明かしていました。だから32年前、吉祥寺に来た時には「エラいところに来ちゃったな」と、そのあまりの静けさに不気味な感じすら覚えたほどです。成蹊大学の周辺なんて本当にひっそりとした、それは閑静なところだったんですよ。

時が流れて、ビルのオーナーも代替わりして若返り、まちに遊びに来る人たちも若者ばかり。若者目当ての店がいくつもでき、その移り変わりの早さにはちょっと戸惑っちゃいますね。まちづくりには、ドンとま

僕はジャズや演芸までいろいろやってきたから、やっぱりそういったエンターテイメント性を盛り上げたいと思うんですね。オーブンテラスのカフェでコーヒーを飲みながら、バックにジャズが何気なく流れている。そんなまちって小粋じゃない？ テーマソングはやっぱり「ジョージア・オン・マイ・マインド」のアレンジ「吉祥寺アオンマイマインド」で決まりだな！

ちをイメージした柱がなければいけないと思うんだけど、どうでしょうか。藤村女子のそばにある弁天湯さん知っています？ 今も薪でお湯を沸かしている古い銭湯なんですけど、ここのご主人が芸能や音楽に理解のある方で、いろいろなジャンルのアーティストがここで銭湯ライブを開いたりしてらんですよ。こういう異業種コラボみたいにも思いがけない場所

で上質の音楽が聴けたり、ライブがあつたりしたら、武蔵野市は「音楽のまち」「アーティストのまち」っていう色ももっと豊かになるんじゃないかな。

